



2014年10月28日

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

第114号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 12ヶ国23名の研修生がIISEEの新コースに参加
- 政研大 入学ガイダンス・オリエンテーション
- 江戸東京博物館・本所防災館見学
- 地震工学専門家向け UNESCO 無料図書の発行
- 新しい研修生の紹介

## 研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース



## 12ヶ国23名の研修生がIISEEの新コースに参加

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子

国際地震工学研修の開会式が10月3日(金)16:00-16:30にJICA筑波国際センターにて開催されました。7人の地震学コース研修生、10人の地震工学コース研修生、そして、6人の津波防災コース研修生が式典に参加しました。彼らの多くが日本に来たのは初めてです。



建築研究所坂本理事長

式典は、木邨洗一JICA筑波国際センター所長の開会の挨拶から始まりました。続いて坂本雄三建築研究所理事長が歓迎の挨拶を述べました。理事長は、挨拶の中で、建築研究所は50年以上に亘り研修事業を行っていること、地震や津波に被災した人々に対し心から同情していること、そして、研修生が自然災害だけではなく、被災地の人々がどう暮らしているのかも知って欲しいと語りました。その

後、政策研究大学院大学(GRIPS)安藤尚一教授に祝辞を頂きました。その後それぞれ研修生が自己紹介を行い、最後に、研修生を代表して、ニカラグアのエミリオ・アダン・タラベラ・マルチネス氏が答辞を述べて式典が終了しました。

関係各国政府とJICA事務所の協力により、本年の研修には、12ヶ国29名の応募がありました。最終的に、12ヶ国23名が日本にやってきました。

新しい一年コース研修生を入れて、研修生の数は81ヶ国1,121名になります。また、これら新研修生を加え

ますと、国際地震工学センターの研修生は、合計99ヶ国1,676名になります。国際地震工学センターでは100ヶ国めの研修生の参加を待っています。



新研修生及び建築研究所・JICA つくばスタッフ

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方  
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。

## 政研大 入学ガイダンス・オリエンテーション

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子

IISEEの一年コースは、政策研究大学院大学(GRIPS)と共同で実施しており、研修生は、IISEEの通常コースに参加すると同時にGRIPSの防災政策修士課程に入学することになります。これによって、研修生は、1年間で修士に必要な履修単位を取得し、修士論文を提出することによって、GRIPSと建築研究所(IISEE)から修士号「防災政策」を取得することができます。



政研大会場にて

10月2日(木)、入学ガイダンス・オリエンテーションが、政研大想海樓ホールで開催されました。23名の新研修生が参加し、最初にGRIPS白石隆学長の歓迎挨拶がありました。



プログラムガイダンス

ホールでの式典の後、安藤尚一プログラムディレクターと家田仁教授がプログラムのガイダンスを行いました。安藤教授の概要説明の後、家田教授が1~2月に2週間実施される集中講義の補足事項の説明を行いました。そこでは、東京都内の研修視察とグループでの学習と発表を予定しています。家田教授は、手際よく鮮やかに内容を説明し、IISEEとICHARM(土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター)の研修生を3つのグループに分けました。それらは、都市部の災害、沿岸部の災害、内陸農村部の災害の3つです。

基本的に研修生はつくばで講義を受けます。GRIPSの新しい取り組みによって、研修生の2週間の東京での政研大滞在が実り多いものとなることを期待しています。

## 江戸東京博物館・本所防災館見学(10月10日)

国際地震工学センター長 横井 俊明

地震学コース及び地震工学コースの研修生にとって、つくばにやって来てから、首都東京を訪れるのは今回が初めての機会でした。午前中は江戸東京博物館で、東京低地の地質学的な歴史、すなわち首都東部の厚く柔らかい土壌の形成について、そして1923年の関東地震による被害について学びました。

午後は、本所防災館にて、煙体験コーナー、暴風雨体験コーナー、地震体験コーナー、消化体験コーナーなどでの体験をしました。つまり、煙に囲まれ、濡れ、揺さぶられ、そしてついには「火事だ!!!」と叫んだのです。彼らが、道



暴風雨体験

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
http://iisee.kenken.go.jp

**バックナンバーは  
下記をご覧下さい。**

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

中に見た東京中心街の景色も楽しんでくれたなら嬉しく思います。

## 地震工学専門家向けUNESCO無料図書の発行

Ananad S. Arya教授(インド)、Teddy Boen教授(インドネシア)及び石山祐二教授の著書である「New guidelines to improve the safety of informal buildings」がUNESCOから出版されました。

- 詳細は以下参照 :

[http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/about-us/single-view/news/new\\_guidelines\\_to\\_improve\\_the\\_safety\\_of\\_informal\\_buildings/#.VA T9a6OHh0o](http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/about-us/single-view/news/new_guidelines_to_improve_the_safety_of_informal_buildings/#.VA T9a6OHh0o)

- ダウンロード(無料!) :

<http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002290/229059E.pdf>

Arya教授はインド工科大学(IIT)・ルーキー校の地震工学部名誉教授であり、インド政府のインド地震工学規格委員会の議長を務めており、IISEEの元UNESCOエキスパートでもあります(1988年~1993年)。Boen教授は、世界地震安全推進機構(WSSI)のシニアアドバイザーであり、国際地震工学会(IAEE)の元理事でもあります。地震工学コース(1962年~1963年)に参加されていました。石山教授は、北海道大学の名誉教授です。IISEEの元第一耐震工学室長でもあり、長年に亘り地震工学コースで教鞭をとっていただいています。

## \*\*\* 新しい研修生 2014-15 \*\*\*

No.	国名	氏名	役職/所属先
<b>地震学コース (7名)</b>			
1	 <b>アルジェリア</b>	Mr. Moad CHIKH	国立地震工学研究センター 地震ハザード課 研究員
2	 <b>モンゴル</b>	Mr. Ganzorig DAVAASUREN	モンゴル科学アカデミー 天文学・地球物理学研究センター 地震学部 研究員
3	 <b>モンゴル</b>	Ms. Baigalimaa GANBAT	モンゴル科学アカデミー 天文学・地球物理学研究センター 地震学部 研究員
4	 <b>モンゴル</b>	Mr. Baasanbat TSAGAAN	モンゴル科学アカデミー 天文学・地球物理学研究センター 地震学部 研究員
5	 <b>ミャンマー</b>	Mr. Kyaw Kyaw LIN	運輸省 気象水文局 地震課 国立地震データセンター 課長補佐
6	 <b>ペルー</b>	Ms. Nadia Eda MACAVILCA ROJAS	日本・ペルー地震防災センター 防災計画部 研究助手
7	 <b>フィリピン</b>	Mr. Johnlery Pino DEXIMO	フィリピン火山・地震研究所 科学技術部 地震観測・予知課 研究助手

地震工学コース（10名）				
1		バングラデシュ	Mr. Md Shafiul ISLAM	公共事業庁 設計第一課 研究助手
2		バングラデシュ	Mr. Md Jahidul Islam KHAN	公共事業庁 計画第二課 研究助手
3		エルサルバドル	Mr. Gino Francisco CABALLERO MORALES	建設コンサルタント会社 技術管理部 プロジェクトマネージャー
4		エルサルバドル	Mr. Nelson Alejandro QUINTANILLA PINTO	公共事業・運輸・住宅都市開発省 研究開発部 技師
5		ネパール	Mr. Harish Chandra LAMICHHANE	ラリトプル副都心市役所 都市開発部 技官
6		ネパール	Mr. Nagendra Ray YADAV	ラウトハト郡ガウール自治事務所 技官
7		ニカラグア	Mr. DULANTO GUTIERREZ Pedro Manuel	ニカラグア国立工科大学 建設技術学部 建設学科 講師
8		ペルー	Ms. Mary Criss SUAREZ ANTUNEZ	日本・ペルー地震防災センター 構造工学研究室 研究助手
9		フィリピン	Ms. Kathrine Anne Malabuyoc CAILING	公共事業高速道路省 計画局 建築課 技官
10		タイ	Mr. Suppachai SINTHAWORN	スリナカリンウィロト大学 工学部 土木工学科 准教授
津波防災コース（6名）				
1		エクアドル	Ms. Patricia ARREAGA VARGAS	海洋研究所 海洋科学部 海洋研究員
2		エクアドル	Ms. Teresa Jacqueline VERA SAN MARTIN	危機管理庁 状況分析室 技官
3		インドネシア	Mr. Fauzi	気象気候地球物理庁 地球物理部 職員
4		インドネシア	Mr. Urip Setiyono	気象気候地球物理庁 地震津波センター
5		ニカラグア	Mr. Emilio Adan TALAVERA MARTINEZ	ニカラグア領域研究所 地球物理総局 地震部長
6		フィリピン	Mr. Karl Vincent Colobong SORIANO	フィリピン火山・地震研究所 科学技術部 地震観測・予知課 研究助手

合計23名